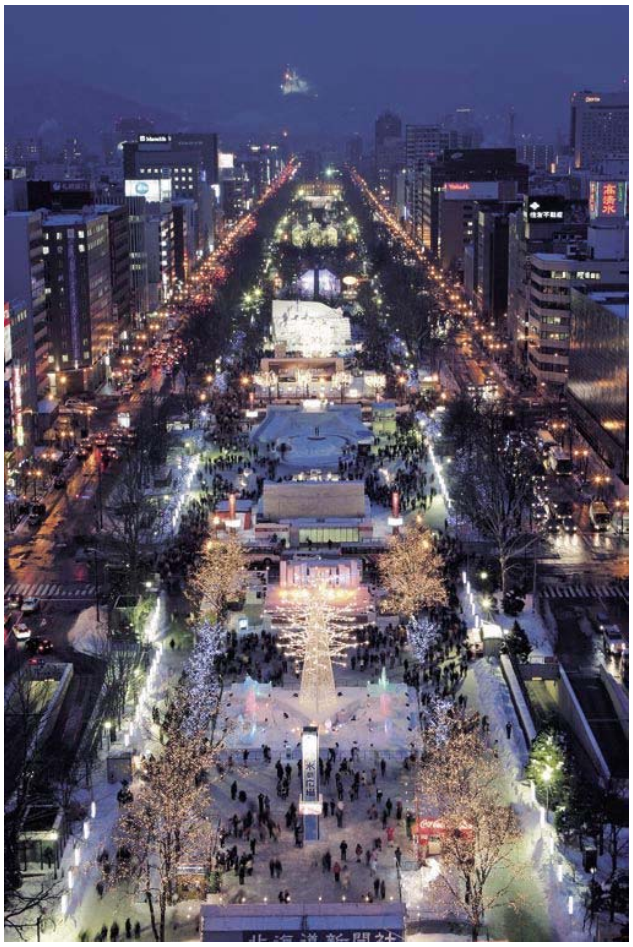
JIPA

2012年度 全国大会 in 北海道

◆◆北の歴史と祭り◆◆



SAPPORO SNOW FESTIVAL 58

2013年2月9日(土)～2月10日(日)

●主　催：一般社団法人／日本インテリアプランナー協会　●運　営：北海道インテリアプランナー協会

HOKKAIDO INTERIOR PLANNERS' ASSOCIATION

北海道インテリアプランナー協会　20th記念

●文化講演会・共催：北海道
●後　援：財団法人／建築技術普及センター
一般社団法人／北海道建築士会、一般社団法人／北海道建築士事務所協会、
社団法人／日本建築家協会北海道支部、北海道インテリアコーディネーター協会、
公益社団法人／日本インテリア産業協会北海道支部、北海道デザイン協議会、
社団法人／日本商環境設計家協会北海道支部、　社団法人／北海道商業施設技術協会

多様な雪の結晶の一つ

SAPPORO SNOW FESTIVAL 64 イメージキャラクター

■ご挨拶

北海道インテリアプランナー協会会長　野村 光雄

ー 六花の国札幌へようこそ ー

皆様　遠いところ北海道大会にご参加ありがとうございます。これを読まれているという事は、この時期に全国大会を催すことで一番の心配をしていましたが、冬の嵐に遭わず、無事札幌に到着したという事ですね。よくぞいらっしゃいました。無事到着おめでとうございます。

冬の北海道を悩ます雪ですが、大変美しい面もございます。雪の結晶の多彩さは、同じ形が二つとないことに由来します。基本的には「六花（ろっか）」と呼ばれるように六角形ですが、横や縦に伸びる「角板」「角柱」に大別され、さらに扇形・角板・樹枝・角柱・針・砲弾など形状はさまざま。なぜ六角形になるかは解明されておらず、神秘的で繊細な美に満ちているのです。

ちなみに、雪の結晶は、雲の中では氷の結晶の状態。周囲の水蒸気を取り込んで大きくなり、落ちたものが雪の結晶になります。結晶がくっつき合ったのが「雪片」で、大きいものは「ぼたん雪」と呼びます。落下している雪の結晶などに小さな水滴が次々とぶつかって凍りつくと、「あられ」になるのだそうです。

美しい雪に脚を取られず、楽しい雪の札幌を体験していって下さい。

冬の時計台

※この大会は、(財)建築技術教育普及センターの助成金等によって開催されています。

JIPA 2012年度 全国大会in北海道の日程

◆◆ 北の歴史と祭り◆◆

◆2月9日（土）

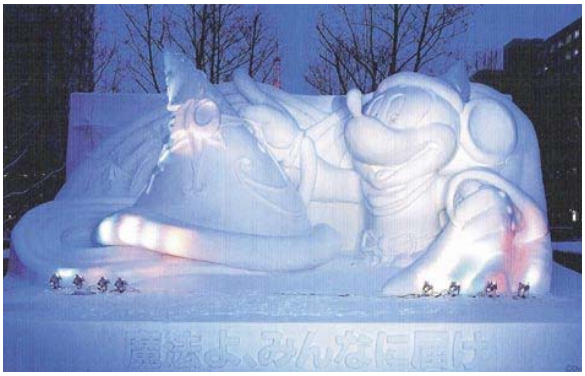
JIPA大会　13：00−14：30

会　　場：北海道庁旧本庁舎２階（北海道庁赤れんが庁舎）
受付開始：12：30
大　　会：13：00−14：30
記念撮影：終了後、建物内にて集合写真を撮影

北海道庁旧本庁舎（北海道庁赤れんが庁舎）

文化講演会　15：00−16：25

主　　催：日本インテリアプランナー協会
運　　営：北海道インテリアプランナー協会
共　　催：北海道
後　　援：建築技術教育普及センター他
会　　場：北海道庁旧本庁舎２階
（北海道庁赤れんが庁舎）
札幌市中央区北３条西６丁目
受付開始：14：45
定　　員：120名（一般参加者含む）
記念講演：15：00−15：40
『北の歴史的建物とインテリア』
北海道大学名誉教授　角幸博氏
文化公演：15：45−16：25
『Ainu Art Project（アイヌアートプロジェクト）』


SAPPORO SNOW FESTIVAL 63

雪祭り大通り会場 SAPPORO SNOW FESTIVAL 64

16：40−18：00　徒歩による移動と自由見学

交流会（1部）　18：30−20：00

集合時間：18：00（アテンダントから離れないように）
集合場所：さっぽろテレビ塔１Ｆ屋外多目的スペース
札幌市中央区大通西１丁目
会場（1部）：（集合場所から徒歩にて移動／500m
美術館経由）
札幌ファクトリー・ビアケラー札幌
『サッポロビールとドイツ風料理』
サッポロファクトリー内レンガ館1F
札幌市中央区北２条東４丁目
tel 011-207-5959
受付開始：18：15

ファクトリー・ビアケラー（1部会場）

交流会（2部）　21:00−22:30

タクシーにて団体移動（費用は会費に含む）

雪祭りススキノ会場（氷像）自由見学

会場（2部）：ジャスマックプラザホテルＢ１Ｆ 花遊膳
『北海道の和の料理』
札幌市中央区南7条西3丁目
tel 011-513-1077
受付開始：20：45

ジャスマックプラザホテル全景（２部会場）

※集合写真等は、後日 HIPA（北海道インテリアプランナー協会）のホームページに非公開データとして掲載します。
ホームページアドレス：http://www.hipa.biz/　ダウンロード用の暗証コード：hipa2012（半角）
※現在は掲載されていません

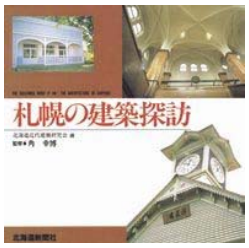
記念講演 北の歴史的建物とインテリア

角　幸博　KADO Yukihiro　北海道大学名誉教授
NPO 法人　歴史的地域資産研究機構（略称：れきけん）代表理事

北海道や旧樺太（ロシア国サハリン州）に現存する歴史的建物の保存活用状況と価値の考え方を、失われた建物やインテリアも含めて探るとともに、歴史的建物が地域の貴重な資産であることを再確認するとともに、それらが地域復興や地域力増強、地域づくりの有効な資源であることを共有したいと思います。

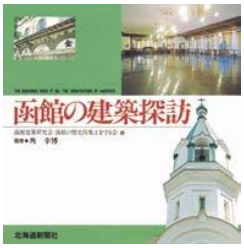
【略歴など】
1947年　札幌生まれ
1970年　北海道大学建築工学科卒業後、同大学助手、助教授、教授を経て2012年退職、博士（工学）、一級建築士
北海道文化財保護審議会会長、札幌市都市景観審議会委員を歴任のほか、現在は札幌市文化財保護審議会会長、北海道文化財保護協会副会長
北海道・樺太の近代建築史や建築家・建設業者・建築職人の研究、歴史的建造物の保存活用、歴史的資産を活かしたまちづくりなどの活動に従事

主な著書から／建築探訪シリーズ

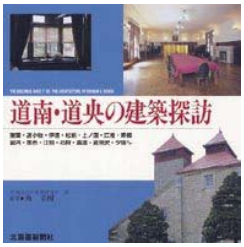


札幌の建築探訪
北海道新聞社発行

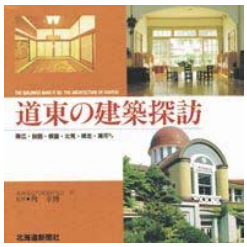
旭川と道北の建築探訪
北海道新聞社発行



函館の建築探訪
北海道新聞社発行



道南・道央の建築探訪
北海道新聞社発行



道東の建築探訪
北海道新聞社発行

文化公演 Ainu Art Project（アイヌ アート プロジェクト）

北海道を拠点に、ライブ、版画、木彫、刺繍、ストーリーテリング、ポエトリーなど、幅広い表現でアイヌ文化と、その精神を伝えるアーティスト集団。

2008 年 8 月の「先住民族サミットアイヌモシリ」のオーガナイズに関わり、「先住民族サミット in あいち 2010」でも実行委員として文化交流等を企画・実践。世界の先住民と共に大地のメッセージを発信しています。

２０１２年 12 月には仏ルーブル美術館での公演を果たしました。また、２０１２年6月には、ノルウェーにてサーミ民族と交流コンサートを成功に収めました。

グループのコンセプトである「今を生きるアイヌ」「希望という名のコタン」を胸に道内外に文化の力でアピールし続けています。

当日の演目（予定）

◆トンコリとムックリの演奏　◆短いアイヌ語の語り

◆伝統曲　チュプカワカムイラン　◆イタクタクサ(伝統アレンジ曲)

◆アトイソー(伝統アレンジ曲)　◆マクナレラ(伝統アレンジ曲)

◆サルキウシナイ(伝統アレンジ曲)　◆エムシリムセ(伝統歌謡舞踊)

赤れんが庁舎の歴史

北海道開拓使は、蝦夷（えぞ）地の開拓をつかさどるため、明治2年（1869）7月8日、政府の行政機関として設置されました。その後、幾多の変遷をへて、明治5（1872）年、札幌本庁と改称され、現在の北海道道庁構内を含む西4丁目から西8丁目までと、北1条から北6条までを敷地として、明治6（1873）年、旧開拓使札幌本庁舎と付属建物が完成しましたが、明治12（1879）年の火災で焼失してしまいました。

明治15（1882）年、開拓使は廃止され、3県1局時代をへて、明治19（1886）年、新たに北海道庁が設けられ、明治21（1888）年に、平井晴二郎を主任とした道庁の技師が設計を担当して、北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）が建設されました。アメリカ風ネオ・バロック様式のれんが造りで、建築資材のれんが、硬石、木材などの多くは、道産品を使用していました。

札幌市厚別区に再現された旧開拓使札幌本庁舎

間口61m、奥行36m。塔項部までの高さは33mで、現在の10階建てビルに相当します。当時は、国内有数の大建築物でした。

周囲に高層建築がない時代のこと、赤れんが庁舎の威容に、人々は圧倒されたことでしょう。

建物の項にそびえる八角塔は、明治１２年に焼失した開拓使札幌本庁舎の八角塔を模したものです。当時、アメリカでは、独立と進取のシンボルとして、ドームを乗せる建築様式が流行していました。初代北海道庁長官岩村通俊が赤れんが庁舎建設に当たり、この八角塔をしのび、屋上に設けたものといわれ、明治政府の北海道開拓にかける意気込みを示しています。

赤れんが庁舎は、明治42（1909）年の火災で、内部を焼失しましたが、幸いなことに、赤れんが壁はさしたる損傷もなく、翌年には復旧工事に取り掛り、明治44（1911）年に工事が完了しています。

その後、北海道百年を記念して、昭和43（1968）年に創建当時の姿に復元し、永久に保存することになりました。昭和44（1969）年、国から重要文化財の指定を受けています。

雪祭りの歴史（さっぽろ雪まつりのホームページより）

雪まつりは、1950年に、地元の中・高校生が6つの雪像を大通公園に設置したことをきっかけに始まりました。雪合戦、雪像展、カーニバル等を合わせて開催、5万人あまりの人出で予想以上の大人気でした。以後、札幌の冬の行事として市民に定着していくことになります。

1953年には、高さ15メートルの大雪像「昇天」がはじめて作られました。1955年には、自衛隊が参加し、大規模な雪像づくりに挑戦。第10回開催の1959年には雪像制作に2,500人が動員、はじめてテレビ、新聞でも紹介され、翌年からは本州からの観光客も増えて大盛況となりました。こうして、札幌の雪まつりから日本の雪まつりへと発展していきました。

1965年、第二会場として真駒内会場を正式に設置。1972年には、冬季オリンピックが札幌で開催、「ようこそ札幌へ」のテーマで雪まつりは世界に知られるようになります。

1974年はオイルショックで試練の雪まつりとなりました。雪はこびトラックのガソリンが手に入らず、雪像の中にドラム缶を入れるなどして乗り切りました。この年から国際雪像コンクールもスタートしました。

SAPPORO SNOW FESTIVAL 58 すすきの会場

1974年以後、瀋陽、アルバータ州、ミュンヘン、シドニー、ポートランドなど札幌とつながりの深い外国地域の雪像が制作され、国際色あふれるイベントとして発展しました。その後、第34回開催の1983年から3番目の会場として「すすきの会場」が登場し、ネオンに輝く氷像が評判を呼び、雪まつりの新たな一面を開拓するとともに、1984年から会期を2日間延長し7日間とするなど、世界中の多くの人々に愛されるまつりへと成長を続けてまいりました。

2005年で40年続いた真駒内会場が閉鎖し、2006年から2008年はさとらんど会場を開設、2009年からは第2会場をつどーむ会場とするなど、新たな雪まつりの創出に向け進化しつづけています。

会場案内

◆**大通会場：大通公園 西1丁目～西12丁目　開催時間：自由時間（ライトアップは22：00まで）**
◆**つどーむ会場：札幌市スポーツ交流施設コミュニティドーム（愛称：つどーむ）札幌市東区栄町885番地1　開催時間：9：00～17：00**
◆**すすきの会場：南４条通りから南６条通りまでの西４丁目線（駅前通り）市道**
開催時間：自由時間（ライトアップは24：00まで。※最終日は22：00まで）

北海道の形成と古代の北海道

恐竜やアンモナイトが生きていた約1億年前（白亜紀）、日本列島はまだ大陸の一部でした。約1600万年前（新第三紀中新世中期）、日本列島が大陸から離れ「古日本海」ができると、太平洋プレートの沈み込みにより、日本海溝と千島海溝が形成されました。そのころに形成された「北海道島」は、火山の噴火や地震が頻繁に起こる地域となり、約1000万年前（新第三紀中新世後期）に日高山脈の隆起が始まっています。人類がアフリカで誕生するのは、その約500万年も後のことです。

約120万年前の北海道は、現在の低地帯周辺が海に覆われ、特に石狩低地帯は海峡のような環境であった可能性があり、それらの地域から産出した貝や海生哺乳類の化石から、寒冷な環境であったことが推定されています。また、地殻変動が盛んとなり、北海道各地に起きた隆起運動は、現在の北海道の形成に多大な影響を与えることとなりました。

約40万年前の中期更新世ころの海進（温暖化）を経て、約15万年前（中期更新世末期）に訪れた氷期（リス氷期）では、海水面が－130m前後低下し、日本海は「湖」となりました。この時期、朝鮮、対馬陸橋を通ってナウマンゾウ、オオツノシカ、トラやヒョウといった大型脊椎動物が大陸から日本列島に移動し、その一部は北海道にまで渡ってきています。

後期更新世は、最終間氷期（約13万年前から11万年前）と最終氷期（約11万年前から1万年前）に区分されますが、最終間氷期の温暖な気候により、海水面の上昇によって再び海峡が生まれ、大陸から渡ってきたナウマンゾウやオオツノシカなどは、島となった北海道で孤立することになりました。

東アジアを逆さに見る（by GoogleEarth）

北海道やサハリンのオホーツク海沿岸域に分布する自然貝殻層や貝塚の古環境解析などにより、B.C.500～紀元前後の弥生海進期、8世紀と10世紀の平安海進期、15世紀～16世紀頃の室町海進期の存在が明らかにされています。また、サロマ湖岸で採集した堆積物中の珪藻類の分析によって、11世紀末～14世紀と16世紀末～17世紀の海退期も明らかにされています。16世紀末～17世紀の海退期は、小氷期（しょうひょうき）に当たり、世界的に寒冷だった時代です。

「縄文時代」は、約1万6500年前から約3000年前頃とされていますが、地域差もあり、縄文終了時期についての見解も多くの議論があります。北海道における縄文時代は、草創期（約12000～9000年前）、早期（約9000～6000年前）、前期（約6000～5000年前）、中期（約5000～4000年前）、後期（4000～3000年前）、晩期（約3000～2400年前）に編年されることが多いのですが、これも地域差があります。特に、道南西部に発見される縄文遺跡は、東北北部との関係が深いとされています。

本州において、弥生時代から古墳時代が形成されていた頃、北海道においては、縄文時代から大きな文化的変化を示しませんでした。それは、弥生時代を象徴とする稲作が持ち込まれなかったからです。北海道におけるこの時代を「続縄文時代」といいます。約23000～1400年前、紀元でいえば、紀元前3世紀から7世紀にかけてのことになります。続縄文文化では、水稲農耕は行われず、狩猟・漁労を主な生業としていたことが多くの貝塚や骨角製漁労具、石製ナイフの存在から判明しています。

3世紀から13世紀にかけて、オホーツク海南岸一帯、すなわちサハリン南部から北海道北部一東部そして千島列島に展開した、それまで北海道に住んでいた人々とはまったく異なる海洋民がつくりあげた「オホーツク文化」が現れています。

7世紀から13世紀というと、本州では飛鳥時代から鎌倉時代に当たりますが、北海道を中心として「擦文文化」が現れています。縄文時代以来、土器を用いて煮炊きをしていた人びとが、東北地方北部の土師器（はじき）を模倣して、土器表面をヘラ状の木片で擦（こす）って、刷毛でなでたような跡を残したので、擦文土器といわれています。前期（6世紀後葉から8世紀）、中期（9世紀から11世紀前半）、後期（11世紀後半から13世紀）に編年されています。本州方面の文化の影響も受けながら、オホーツク文化の影響も受けたと見られています。

「アイヌ文化」は、擦文文化を担った人びとが、本州では鎌倉時代に当たる13世紀頃から、擦文文化を脱すると共に、生み出してきた文化を総称したものです。北海道の古代を語る場合は、サハリンや千島列島を抜きにしては語ることはできません。サハリン州郷土誌博物館の研究によると、擦文文化の担い手たちも千島列島に渡っています。サハリン南部では、1999年のドリンスク地域センナヤでの古代人居住地の発掘調査において、前期旧石器時代に属すると考えられる原人（ホモ・エレクトス）の遺構が確認されたそうです。その年代は10万年前か、それ以上前のものと推定されています。

札幌市内中心地図と緊急連絡

第1部会場 サッポロファクトリー・ビアケラー札幌　札幌市中央区北2条東4丁目　tel 011-207-5959

第2部会場 ジャスマックプラザホテル・B1F 花遊膳　札幌市中央区南7条西3丁目　tel 011-513-1077

緊急連絡	氏　名	電話番号
アテンダント連絡先		

HOKKAIDO INTERIOR PLANNERS' ASSOCIATION

北海道インテリアプランナー協会

url : http//www.hipa.biz/　e-mail : mail@hipa.biz

事務局　〒001-0923　札幌市北区新川3条12丁目9番11号　TEL・FAX　011-765-3309

2013 年 2 月 9 日発行